

科目名	コーポレートベンチャー論 Corporate Venture Strategies		選択	2 単位
学期・曜日・時限	秋・木・4 限	秋・木・6 限	-	-
担当教員名	岸田 伸幸			
<p><講義の概要と目的></p> <p>大企業を基点にベンチャービジネス乃至ベンチャーキャピタルの経営手法を用いることをコーポレートベンチャリングと呼び、様々なバリエーションがある。その意味で基本的に戦術論であるが、自律性のある経営体を形成することから固有の特性があり、その特性を母体企業側の戦略とフィットさせることが成功の基礎になる。本講座では企業戦略としての本質論を講じつつ、主に ICT 産業を軸としたコーポレートベンチャリングの理論と事例を学ぶ。また、母体企業の事業戦略に則した事例の研究を、業界的間口を広げて行い、理解を深める。期末にグループ課題の発表を予定する。</p>				
<p><講義計画></p> <p>第1週：イントロダクション</p> <p>本講座での概念定義と議論の範囲を論ずる。また、講座進行に関する説明とレポート類のガイダンスを行う。体験的コーポレートベンチャリング観を共有し、受講生の課題意識を確認する。</p> <p>第2週：新事業開発戦略としてのコーポレートベンチャー</p> <p>日本発の世界的な新産業創造策として、VB/VC、技術経営 (MOT)、そして、コーポレートベンチャーも注目されてきた。戦略代替案としての特性を論ずる。</p> <p>第3週：大企業がベンチャー企業と関わる理由</p> <p>現代イノベーションのドライバーである ICT 産業に於いてコーポレートベンチャリングが活発な理由を、イノベーションエコシステム論を基に内外事例を参照しつつ論じる。</p> <p>第4週：コーポレートベンチャリングの理論</p> <p>コーポレートベンチャリングの多様なあり様を踏まえた上で、コーポレートベンチャーキャピタル (CVC) についての研究成果と、イノベーション論的、戦略論意義を学ぶ。</p> <p>第5週：日本におけるコーポレートベンチャリング</p> <p>日本の CVC 投資に関する実証研究成果をみる。そして、CVC の EXIT 手段を整理する。また、会社ベンチャーや投資収益と事業開発のトレードオフについても考える。</p> <p>第6週：事例研究 (1) 大手 ICT 企業のコーポレートベンチャー</p> <p>公共ビジネス偏重体質に悩む大手 ICT 企業はコーポレートベンチャーの試行錯誤を重ねてきた。同社事例を題材に、企業戦略としてコーポレートベンチャーについて考える。</p> <p>第7週：事例研究 (2) 総合商事の ICT ジョイントベンチャー</p> <p>「失われた十年間」有数のコーポレートベンチャー成功事例となった大手総合商社と外資合弁の ICT ジョイントベンチャー事例を通じ、コーポレートベンチャリングのマネジメントを考える。</p> <p>第8週：事例研究 (3) 大手 ICT 企業の社内ベンチャー</p> <p>社内公募制度による社内 ICT ベンチャー起業の失敗事例を学び、社内ベンチャープロジェクトのマネジメントに係る大企業特有の利害得失とその対策について考える。</p> <p>第9週：ICT ビジネス進化論：クラウド時代のコーポレートベンチャー</p> <p>起業家のビジネスコンセプトの変化を ICT イノベーションとの共進化と捉え、クラウド時代の企業側対応策としてプラットフォーム戦略とコーポレートベンチャリングを論ずる。</p>				

第10週：事例研究（4）創業支援ベンチャーのe-ヘルスベンチャー

大手製薬からのスピノフした創業支援ベンチャー企業のe-ヘルス事業部門の展開事例から、ベンチャー側からみたコーポレートベンチャリングと大企業とのアライアンスについて考える。

第11週：オープンイノベーションとしてのコーポレートベンチャリング

現代MOTの重要戦略概念であるオープンイノベーションの実践上、コーポレートベンチャリングは有力な選択肢である。理論と実践に於ける要点を半導体業界などの事例により論ずる。

第12週：事例研究（5）プロセス系企業のコーポレートベンチャー戦略

プロセス系産業ではオープンイノベーションの有効性が認められ、CVCを含むコーポレートベンチャリングが活用されている。ケミカル、食品など内外複数の事例から学ぶ。

第13週：事例研究（6）大手重電メーカーのヘルスケア機器社内ベンチャー

グループ子会社群による多角化経営に長けた大手重電メーカーでは、コーポレートベンチャリングに独自の手法を持つ。近年の同社の産学連携社内ベンチャー事例からその特性を学ぶ。

第14週：グループワーク報告会

有力企業の社内ベンチャーに関するグループ課題に基づく、発表会を行う。報告を踏まえてクラス討議を行い、情報共有と理解の深化を図る。期末レポートについて説明する。

第15週：コーポレートベンチャー論まとめ

前回のグループ報告会の講評を行い、コーポレートベンチャリングの特性をまとめる。

<講義の進め方>

原則として、参考書・教材に拠る講義、またはケースに拠るクラス討議を行う。またグループ課題を課し、第14週に発表とクラス討議を行う。ゲスト（交渉中）を招いた事例講義若干回を企画する。

<教科書及び教材>

参考書の特定章を指示する他、適宜、コピー、プリント、PDF等教材、ケースを利用する。

<参考書>

- ・C・クリステンセン/M・レイナー（2003）『イノベーションへの解』翔泳社
- ・H・チェスブロウ（2004）『オープンイノベーション』産業能率大学出版部
- ・H・メイソン/T・ローナー（2004）『ベンチャービジネスオフィス』生産性出版
- ・起業創造委員会報告書（2008）『企業発ベンチャーの更なる創出に向けて』日本経済団体連合会
- ・中村裕一郎（2013）『アライアンス・イノベーション』白桃書房
- ・前田昇/安部忠彦編（2005）『ベンチャーと技術経営』丸善
- ・湯川抗（2013）『コーポレートベンチャリング新時代』白桃書房
- ・A・グリフィン他（2014）『シリアル・イノベーター』プレジデント社

<成績評価方法>

- ・欠席6回以上は成績評価しない。
- ・ループ発表30%、クラス討議などクラス貢献30%、期末レポート40%の割合で評価する。

<履修条件> 特になし。

<DVDによる視聴> 可

<オフィスアワー> 金曜3限、6限

<その他> 次回分の教科書章、参考書、関係資料類を精読し、webなどで関係情報の収集に努めること。小レポートを課すことがある。ゲスト講師都合により講義回を入れ替えることがある。